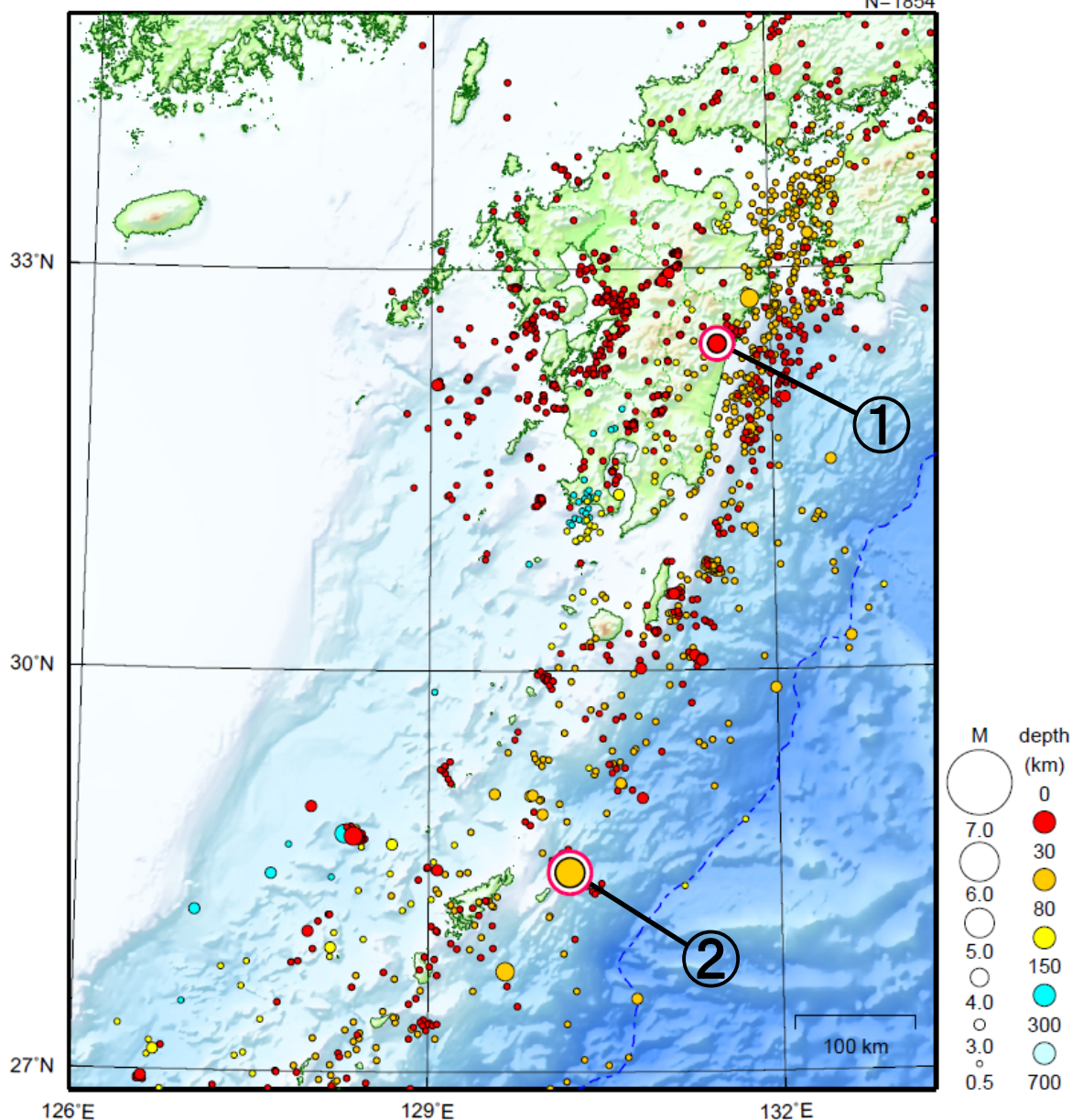


# 九州地方

2024/03/01 00:00 ~ 2024/03/31 24:00

N=1854



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 3月2日に宮崎県北部平野部でM4.3の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 3月15日に奄美大島近海でM5.6の地震（最大震度4）が発生した。

（上記期間外）

4月8日に大隅半島東方沖でM5.1の地震（最大震度5弱）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

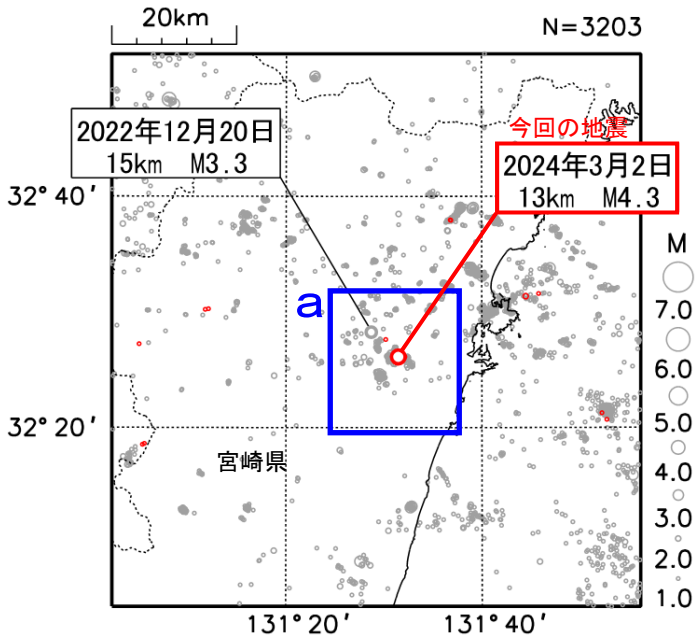
気象庁・文部科学省

# 3月2日 宮崎県北部平野部の地震

震央分布図

(2000年10月1日～2024年4月2日、  
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$ )

2024年3月以降の地震を赤色○で表示

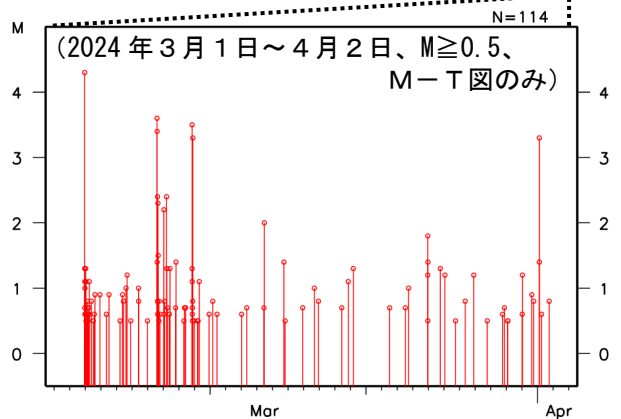
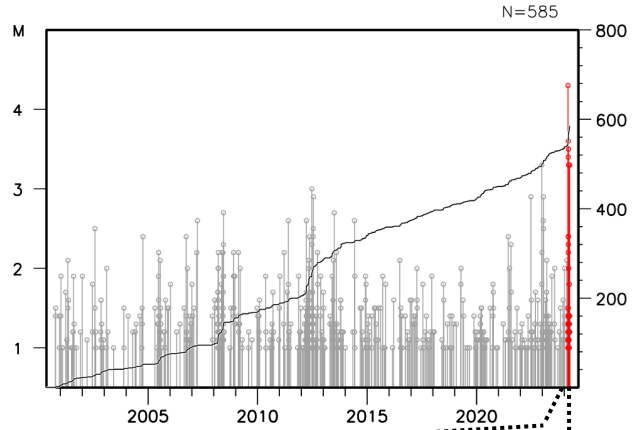


2024年3月2日23時00分に宮崎県北部平野部の深さ13kmでM4.3の地震(最大震度4)が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震後、4月2日までに震度1以上を観測した地震が5回(震度3:1回、震度2:4回)発生した。

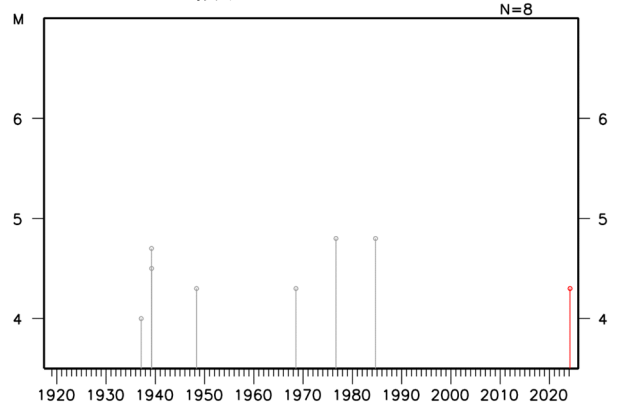
2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域a)は、定常的に地震活動がみられる領域であるが、M4.0以上の地震は発生していなかった。近年では2022年12月20日にM3.3の地震(最大震度1)が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)ではM4.5以上の地震が4回発生している。このうち最大規模の地震は1976年8月31日に発生したM4.8の地震(最大震度2)及び1984年9月3日に発生したM4.8の地震(最大震度3)である。

領域a内のM-T図及び回数積算図

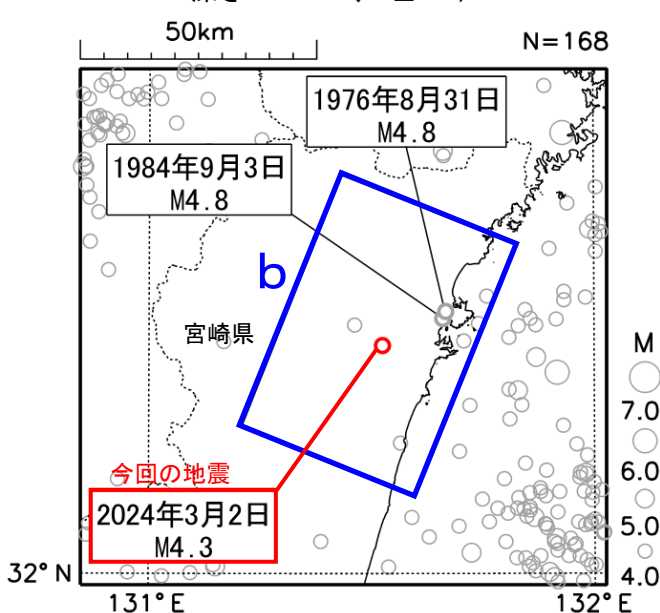


領域b内のM-T図



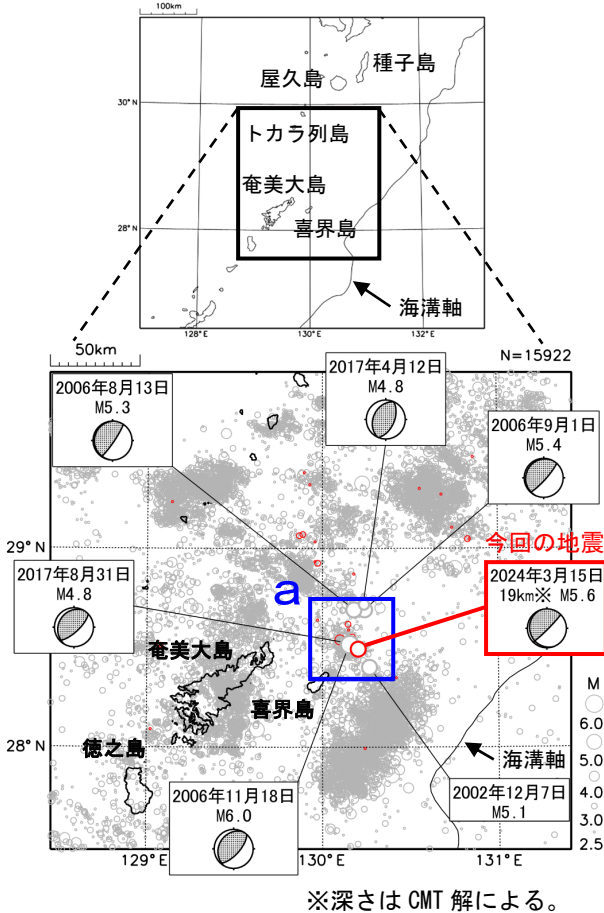
震央分布図

(1919年1月1日～2024年4月2日、  
深さ0～40km、 $M \geq 4.0$ )



# 3月15日 奄美大島近海の地震

震央分布図  
(1994年10月1日～2024年3月31日、  
深さ0～60km、M $\geq$ 2.5)  
2024年3月の地震を赤色○で表示  
図中の発震機構はCMT解

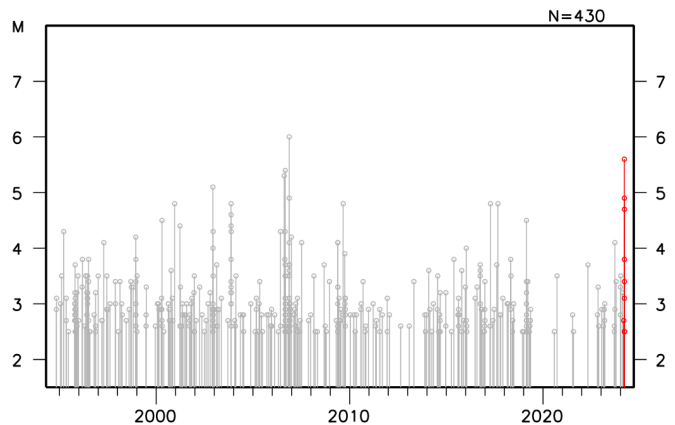


2024年3月15日19時32分に奄美大島近海の深さ19km (CMT解による) でM5.6の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は北西-南東方向に圧力軸を持つ型である。この地震後、3月31日までに震度1以上を観測した地震が3回 (震度3:1回、震度2:1回、震度1:1回) 発生した。

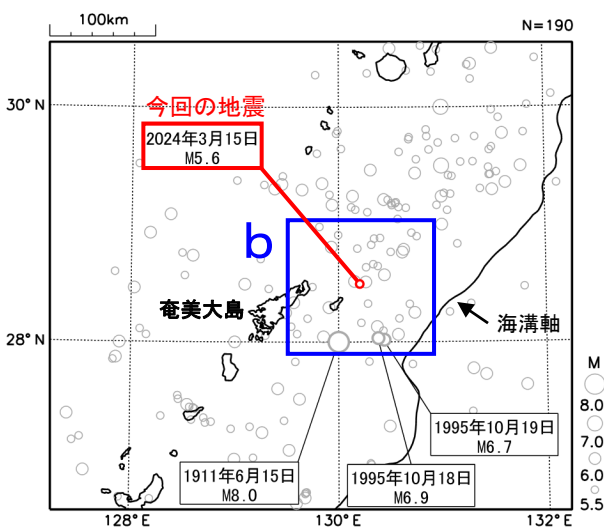
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域a) では、M5.0以上の地震が今回の地震を含め5回発生している。

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域b) では、M6.0以上の地震が時々発生している。1995年10月18日に発生したM6.9の地震 (最大震度5) 及び翌19日に発生したM6.7の地震 (最大震度5) により、喜界島で負傷者1人、住家一部破損4棟などの被害が生じた。これらの地震により、鹿児島県の中之島で43cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測するなど、関東から沖縄にかけての太平洋沿岸で津波を観測した (被害は「日本被害地震総覧」による)。また、1911年6月15日にはM8.0の地震が発生し、死者7名、負傷者26名、住家全壊418棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

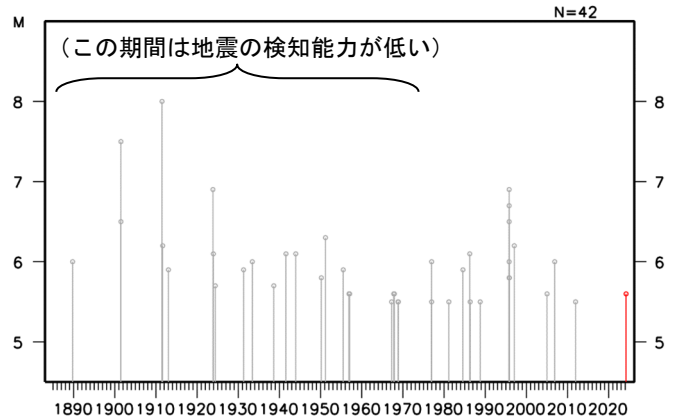
領域a内のM-T図



震央分布図  
(1885年1月1日～2024年3月31日、  
深さ0～120km、M $\geq$ 5.5)



領域b内のM-T図



(震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津 (2001)、宇津 (1982, 1985) による※)

※宇津徳治 (1982): 日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表: 1885年～1980年, 震研彙報, 56, 401-463.

宇津徳治 (1985): 日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表: 1885年～1980年 (訂正と追加), 震研彙報, 60, 639-642.

茅野一郎・宇津徳治 (2001): 日本の主な地震の表, 「地震の事典」第2版, 朝倉書店, 657pp.

# 震度5弱を観測

震度5弱 宮崎県

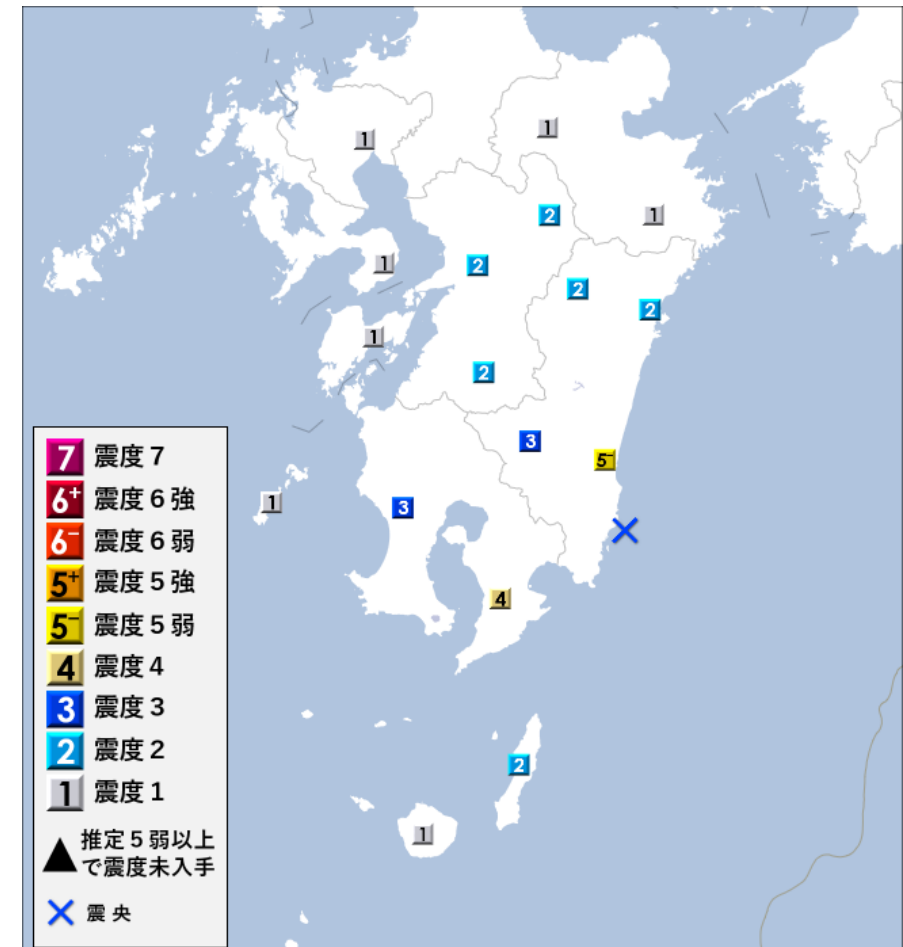
(揺れの強かった地域)

落石や崖崩れなどに注意

※1週間程度(特に今後2~3日の間)

最大震度5弱程度の地震に注意

4月8日10時29分発表





# 地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	4月8日10時25分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	4月8日10時25分
マグニチュード	5.1(暫定値;速報値の5.2から更新)
発生場所	大隅半島東方沖 深さ39km(暫定値;速報値 深さ約 40kmから更新)
発震機構	東西方向に圧力軸を持つ型の地震(速報)
震度	【最大震度5弱】宮崎県の日南市(にちなんし)で震度5弱を観測したほか、九州地方で震度4~1を観測
地震活動の状況 8日11時00分現在	今回の地震発生後、震度1以上を観測した地震の発生なし
長周期地震動の観測状況	階級1以上を観測した地域はなし

# 防災上の留意事項と今後の見通し

## (防災上の留意事項)

この地震による津波の心配はありません。

揺れの強かった地域では、落石や崖崩れなどが起こりやすくなっている可能性がありますので、今後の地震活動に注意してください。

## (今後の地震活動の見通し)

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度5弱程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

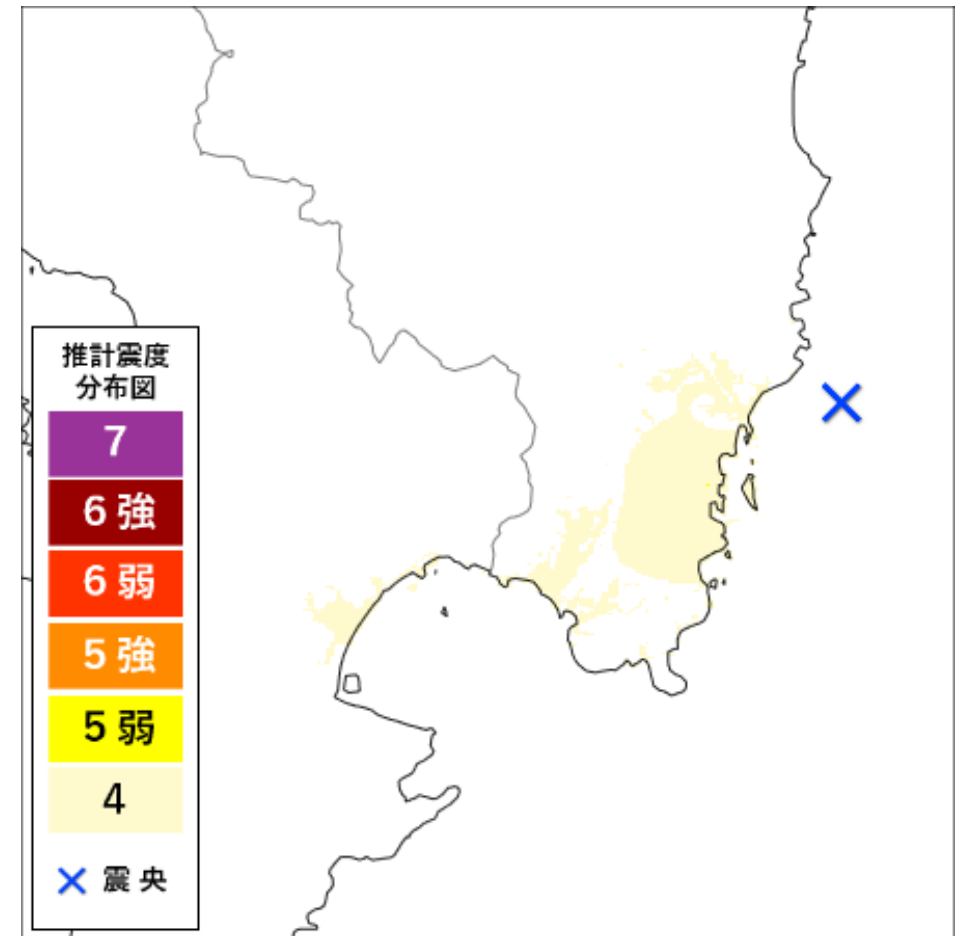
# 震度分布図・推計震度分布図

【各観測点の震度】



4月8日10時29分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

地震情報:[https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake\\_map](https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map)

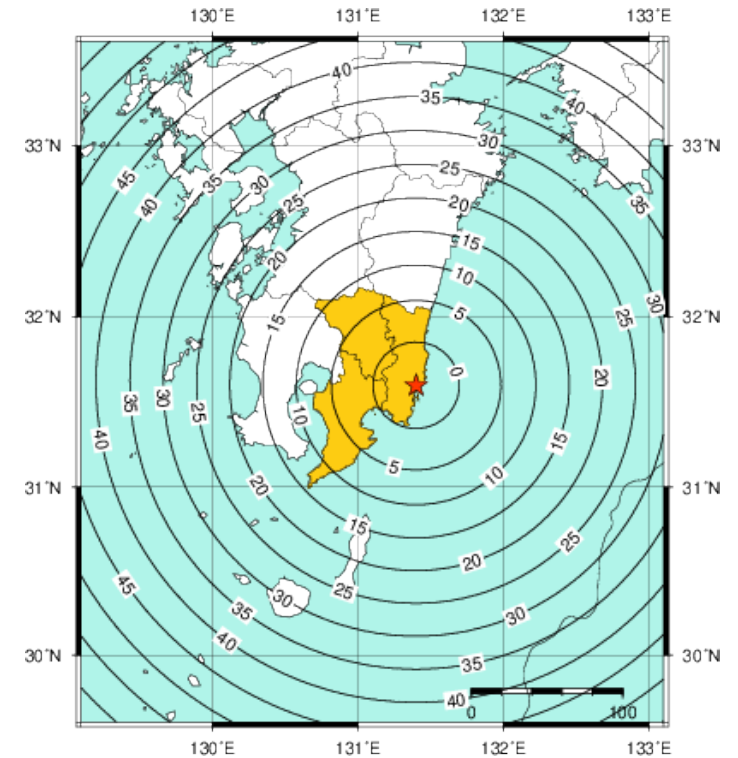
推計震度分布図:[https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated\\_intensity\\_map](https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map)

# 緊急地震速報の発表状況

緊急地震速報の詳細

提供時刻		経過 時間 (秒)	震源要素				予測した 震度と階級	
地震波 検知時刻	10時25分35.7秒		震央地名	北緯	東経	深さ		M
第6報	10時25分42.1秒	6.4	宮崎県南部平野部	31.6	131.4	30km	4.9	※3
※3	震度5弱程度	宮崎県南部平野部						
	震度4程度	宮崎県南部山沿い、鹿児島県大隅						

警報第1報の対象地域及び主要動到達までの時間



緊急地震速報（警報）を発表した地域 ★ 震源

発表状況の詳細は、以下のページでご確認ください。

緊急地震速報(警報)の発表状況:[https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/pub\\_hist/index.html](https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/pub_hist/index.html)

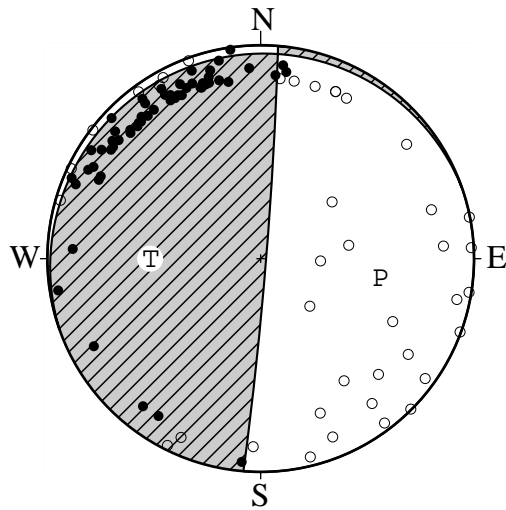


# 発震機構解

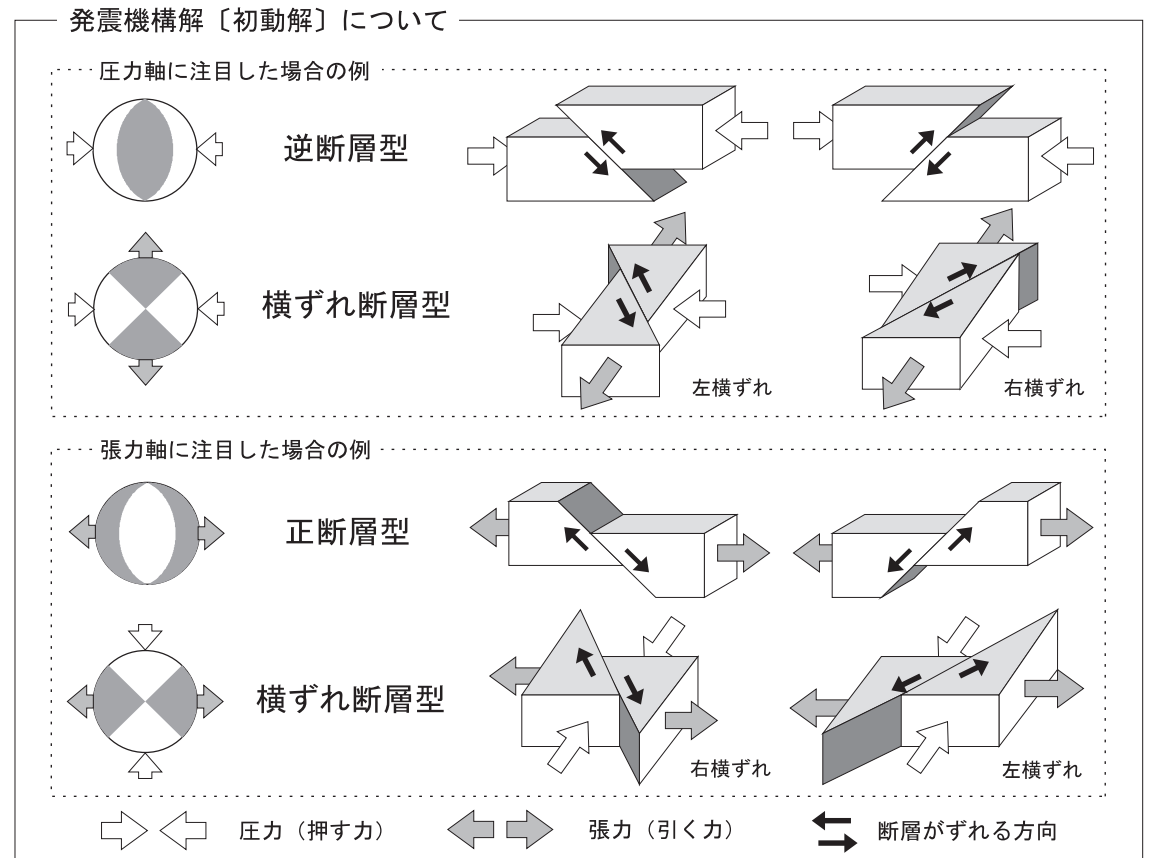
04081025

## 東西方向に圧力軸を持つ型

### [初動解(速報)]



下半球等積投影法で描画  
 P : 圧力軸の方向  
 T : 張力軸の方向  
 は初動が上向きの観測点、  
 は初動が下向きの観測点を示す。

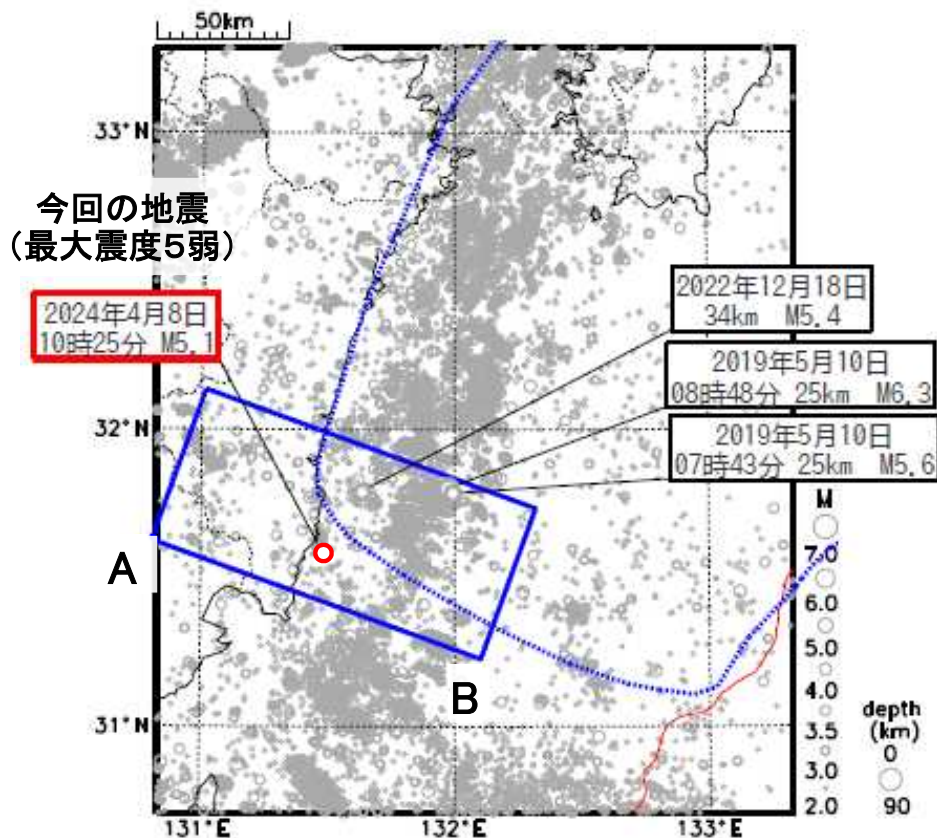


気象庁作成

# 令和6年4月8日 大隅半島東方沖の地震 (発生場所の詳細)

## 震央分布図

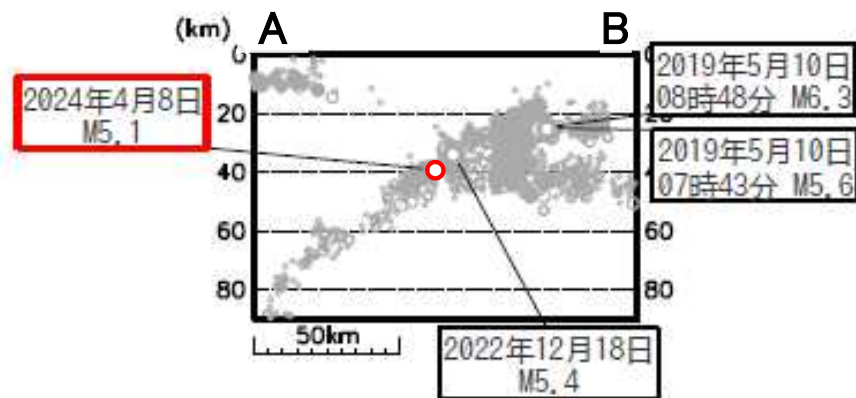
(1997年10月1日～2024年4月8日10時25分、  
深さ0～90km、M.2.0以上)



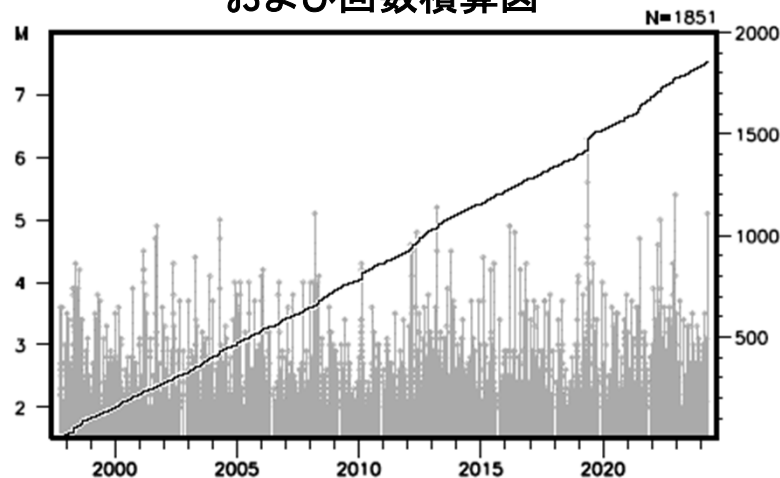
今回の地震を赤色で表示

丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。  
青破線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を表す。

## 左図の四角形領域内の断面図(A-B投影)



## 左図の四角形領域内の地震活動経過 および回数積算図



横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。折れ線は地震の回数を足しあげたものであり、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

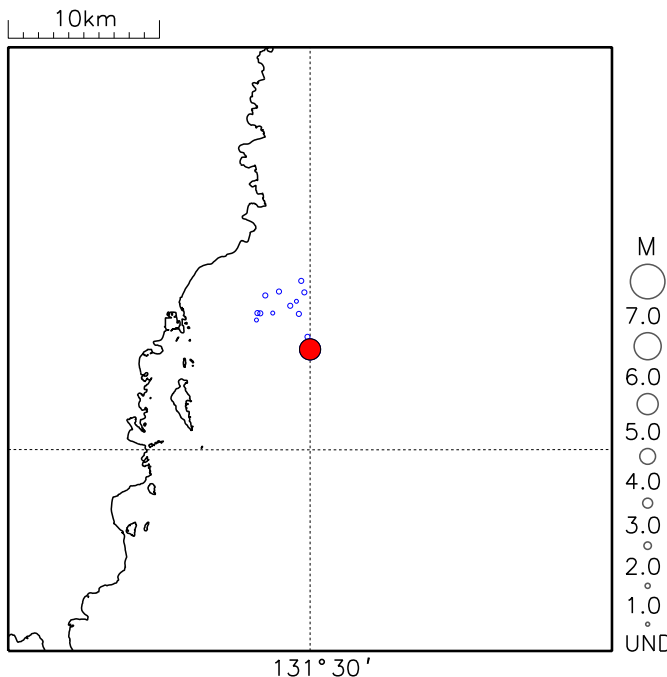
# 今回の地震活動

## 震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、 M 全て

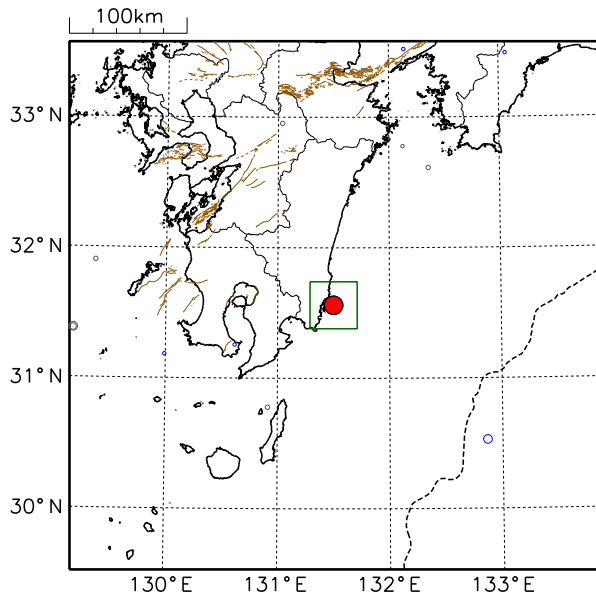
2024 04 08 08:00 -- 2024 04 08 13:30



## 震央分布図（広域図）

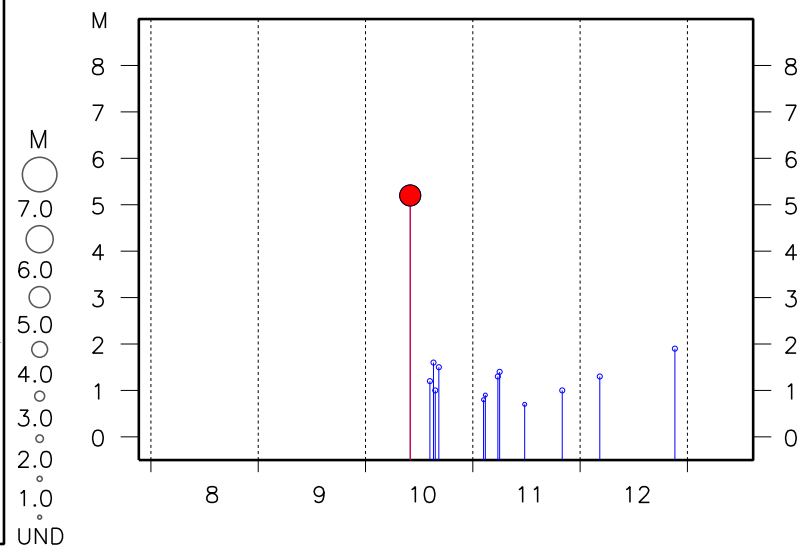
深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 04 08 08:00 -- 2024 04 08 13:30



## 震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2024 04 08 08:00 -- 2024 04 08 13:30



(震源の色について)赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震 灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

### <資料の利用上の留意点>

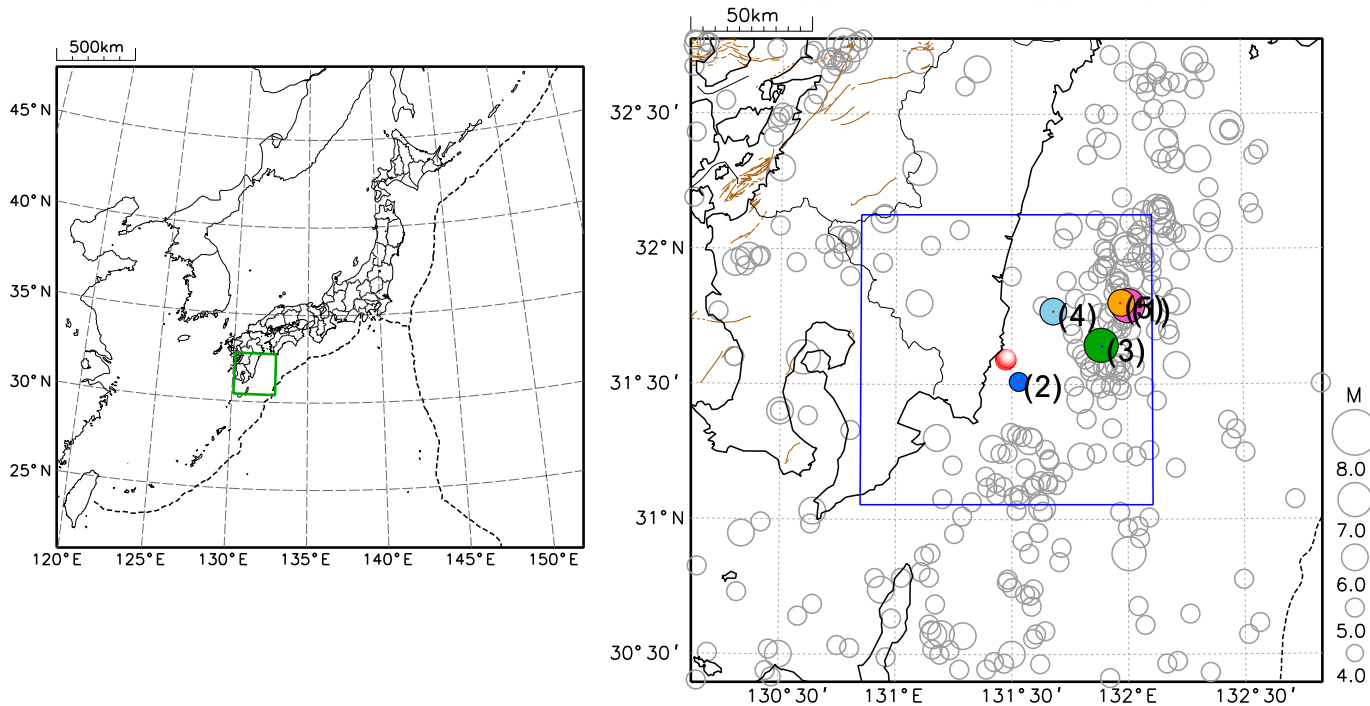
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

# 今回の地震周辺の過去の主な地震活動

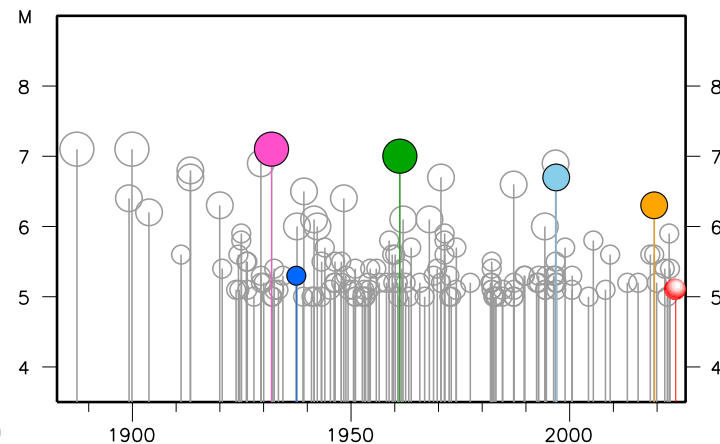
## 震央分布図

M 5.0 , 深さ : 0 ~ 150km  
今回の地震を赤く表示

1885 01 01 00:00 -- 2024 04 08 10:30



## 震央分布図の青色矩形内のM-T図



## 過去の主な地震

主な地震のシンボルの色と番号の対応  
桃：(1)，青：(2)，緑：(3)，水：(4)，黄：(5)

(1) 1931年11月02日 M:7.1 日向灘

(2) 1937年06月24日 M:5.3 大隅半島東方沖

(3) 1961年02月27日 M:7.0 日向灘

(4) 1996年12月03日 M:6.7 日向灘

(5) 2019年05月10日 M:6.3 日向灘

・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

・震央分布図中の黒色の太破線は、海溝軸を示す。

・1885年から1918年の地震の震源要素は、宇津（1982,1985）及び茅野・宇津（2001）による。

<地震の名称について>

・気象庁が定めた地震の名称を「」で示す。

・上記以外で、被害を伴い、広く社会的に地震の名称として知られているものについて、名称（「」を付加しない）を併記している。

名称は、「日本の地震活動（第2版）」（地震調査研究推進本部）による。

・地震の名称の後ろの[]は、この規模の順に近接して発生した主な地震が他にあることを示す。

名称は、最大規模の地震にのみ付加しており、[]内に記載した他の地震が異なる番号で記載される場合がある。

<資料の利用上の注意点>

・今回の地震は、速報値を表示しており、精査後に修正する場合がある。

・過去の地震活動は、M5.0以上の地震、今回の地震は、M4.0以上の地震を表示している。

・過去の地震活動は、地域、時期に依らず、全てM5.0以上の地震を表示している。地域や時期により検知能力（ ）が異なる場合がある。

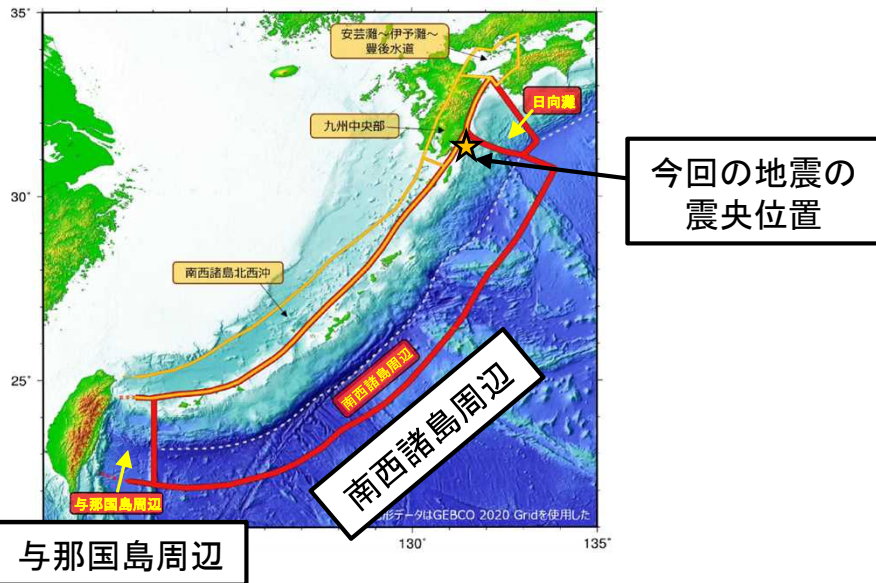
検知能力：特定の地域、時期において、あるM（規模）以上の地震は、概ね全て検知できていると考えられるとする。

この場合、そのMが小さいほど検知能力が高いと言う。

一般的に、同時期であれば、海域より陸域の方が検知能力は高く、同一地域であれば、時期が新しいほど検知能力は高い。



●想定される地震の対象領域(注1)



●周辺で想定されている海溝型地震

○今回の地震の震源周辺では、プレート間地震とフィリピン海プレート内の地震が想定されています。

●海域で発生した規模の大きな地震後に見られた地震活動の例

○過去には、2008年の茨城県沖の地震のように、大きな地震の発生後、より大きな地震が発生し、当初の活動域が広がった例もあります。しかし、2004年の釧路沖の地震のように、より大きな地震は発生せず、地震活動域が広がらなかった例もあります。

●南西諸島周辺、与那国島周辺で発生する地震(注1)

南西諸島周辺及び与那国島周辺の巨大地震

○17世紀以降、発生した巨大地震は1911年の喜界島地震(M8.0)の1回のみのため、発生頻度は推定できません。このことから、将来の地震発生確率のランク(注2)はXランク、地震の規模はM8.0程度と推定されます。

南西諸島周辺のひとまわり小さい地震

○1919年以降、M7.0~7.5程度の地震が4回発生しており、その発生頻度は25.8年に1回(参考値)です。ただし、広大な領域設定となっていることから、発生頻度は参考値です。このことから、将来の地震発生確率のランク(注2)はXランク、地震の規模はM7.0~7.5程度と推定されます。

与那国島周辺のひとまわり小さい地震

○1919年以降、M7.0~7.5程度の地震が12回発生しており、その発生頻度は8.6年に1回です。このことから、将来の地震発生確率のランク(注2)はⅢランク、地震の規模はM7.0~M7.5程度と推定されます。

●海溝型地震の長期評価(注1)

領域または地震名	想定される規模	ランク(注2)
南西諸島周辺及び与那国島周辺の巨大地震	M8.0程度	Xランク
南西諸島周辺のひとまわり小さい地震	M7.0~7.5程度	Xランク
与那国島周辺のひとまわり小さい地震	M7.0~7.5程度	Ⅲランク

(注1) 2022年3月25日公表の「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価(第二版)」より引用。

(注2) 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%~26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「\*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表しています。

※本資料は以下を基に作成しました。

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部) <https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部) [https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou\\_pdf/hyuganada\\_2.pdf](https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/hyuganada_2.pdf)